

# インカ研究に関する記録文書のデジタル化について

渡部 森哉\*

南米大陸西部のアンデス地域に台頭したインカ帝国は1532年にスペイン人一行に征服された。インカ帝国は無文字社会であったが、キープという紐による記録装置が用いられた。征服後の植民地時代に残された記録は、クロニカ（記録文書）と総称される。クロニカにはキープを扱う専門家が語った内容をスペイン語に翻訳した記録や、スペイン人が残した記録が含まれる。こうした文字記録がインカ研究のための貴重な資料となっているが、現存するのが1点のみの記録もある。クロニカの筆写版が書物として刊行されてきたが、異なる版で矛盾がある場合も多い。筆写が正確かどうかを確認するためには、ファクシミリ版と照らし合わせる必要がある。また日本語への翻訳を進める際には、基になった筆写版が正確であるかどうかを確認することが望ましい。web上でクロニカが公開されている例もあるが、今後、筆写版だけでなくファクシミリ版のデジタル化を進め、クロニカを利用しやすい制度を整える必要がある。

## キーワード

記録文書、筆写、ファクシミリ版、web

## 目次

- |              |               |
|--------------|---------------|
| I はじめに       | 2 再検討の例       |
| II 記録文書の種類   | 3 ファクシミリ版のススメ |
| 1 キープ・テキスト   | IV 記録文書の日本語版  |
| 2 先住民の記録     | V 紙資料のデジタル化   |
| 3 スペイン人の記録   | VI おわりに       |
| III 筆写版の検証方法 |               |
| 1 誤った筆写の例    |               |

## I はじめに

南米アンデス地域では後15-16世紀にインカ帝国が台頭した。この古代国家は1532年11月16日にインカ帝国の王アタワルパがフランシスコ・ピサロ率いるスペイン軍に捕縛されたことで実質的に崩壊した。

インカ帝国を含む古代アンデス諸社会では、文字が使用されなかった。そのためインカ帝国の研究のための主な資料は、考古学資料と、植民地時代に主にスベ

イン人が残した記録文書である。本論では、こうした記録文書を事例とし、それらをデジタル化する際の問題点を整理し、その活用法について考察する。

## II 記録文書の種類

16世紀のヨーロッパでは歴史といえば支配者の歴史であった。そうした形式の文書をスペイン語でクロニカ（crónica）と呼ぶ（増田 1962, 1967）。コロンブ

\* 南山大学

スに始まる大航海時代の征服者の記録などを含めて、新世界の記録文書全体をクロニカと呼んでいる。そしてそれらを記した記録者をクロニスタ（記録者）と呼ぶ。

これまで残された紙の記録文書（クロニカ）をいくつかに分類して整理する。

## 1 キープ・テキスト

まず、先住民文化に近い記録文書から検討してみよう。はじめはキープ・テキストと呼ばれる文書である。

キープとは紐を用いた記録装置であり、十進法に従って人口や物資の数が記録された (Urton 2003, 2017, 2025)。音を表す記号ではないため、文字ではない。しかし古代国家にとって必要な簿記会計の作業をこなすことができる。キープカマヨクと呼ばれる専門家がキープを扱っていた。スペイン人の記録には彼らについての記述があるが、残念ながらキープの構造の詳細は解明されていない。実際遺物としてキープが1000以上見つかっているが (Urton 2025: 30)、具体的にどのキープにどのような情報が結ばれているかを説明した記録がない。キープそのものが遺跡から出土するにもかかわらず、どのキープとどの情報が一対一で対応するのかが分からないのである。同一情報を複数の文字で記したロゼッタストーンのようなものがあれば文字の解釈は進むが、それぞれ独立した情報であると解釈は難しい。キープの研究も現在そのような状態になっている。

キープの構造を検討すると、現存するキープの7割は十進法に従っているが、残りの3割は当てはまらない。十進法に従っていないキープは数を記録したものでないとすれば、例えば王に関する情報が結ばれているのかもしれない。

キープを扱うキープカマヨクは訓練された専門家であった。古代国家において文字は一部の特権的人々のみが使用できたことと同様である。そして植民地時代の初期には、彼らはまだキープを扱っていた。そして記録者は彼らを呼び出し、インカ王の歴史を語らせ、それを基にインカ帝国の歴史を再構成した。キープカマヨクがケチュア語で語った内容をスペイン語に翻訳し、紙に記したものがあつた、それをキープ・テキスト

と呼んでいる。キープから逐語的に写された情報が記されており、多くはリストのような羅列的な記録である。キープの情報であったとは明記されていないが、羅列的な内容なので元々キープの情報だったのであろうと判断できる文書もある。

こうした情報を集めた史料集 (Pärssinen & Kiviharju [eds.] 2004, 2010) は、文書館に保管されている紙の記録の現物を確認して、筆写し直したものであり、かなり精度が高い。

古文書の筆写の際には間違いが起こる。また細かい点を確認する必要がある場合がある。しかし各研究者が現物を全て確認することは難しい。そのためにできるだけオリジナルに近い形で史料をデジタル化することが必要である。これは例えば、考古学における土器や石器といった資料の図面や写真と同様である。土器や石器の場合、図面化をする技術が必要であり、どのような情報を図面化するかを研究者間で共有する必要がある。これは古文書を現代的なスペルに置き換えることと類似する。土器や石器の写真を撮影する場合は、複数の角度から撮影する必要があり時間もかかるが、文字資料の場合、二次元でスキャンすればとりあえず活用できるため、実用化は容易である。

しかし、再検討できる文書はまだいい。というのも多くの重要な文書が、どこに所蔵されているか行方不明になっているからである。その場合、オリジナルの文書が発見されない限り、筆写された文書しか利用できない (例: Caruarayco 1955[ca. 1606])。

一方で、キープそのもののデータベース化が進められている。遺跡からキープが出土し、世界のいくつかの博物館に保管されている。そのデータベース作成がハーバード大学で進められていたのだが、担当者が退職したため、その後 URL が変更となり、別の研究者のサイトも立ち上がった<sup>1</sup>。デジタルデータは属人的要素が強いと、将来アクセス不可能になる可能性がある。

## 2 先住民の記録

記録文書の次のカテゴリーは、先住民自身が記録した文書である。インカ帝国の公用語はケチュア語であったが、実はアンデス地域では、ケチュア語で記した文書がほとんど残されていない。アイマラ語など他

1 <https://khipufieldguide.com> は現在別の研究者が管理している。  
<https://web.archive.org/web/20210126031628/http://khipukamayqu.fas.harvard.edu/>  
はもともとの管理者の Gary Urton の web ページである。

の言語についても同様である。この状況はナワトル語などの文書が数多くあるメソアメリカ地域との大きな違いである。メソアメリカには絵文書があったため、紙に記すという技術があり、その延長上で先住民言語による記録も残ったのであろう。アンデス地域においてケチュア語で記された文書は1つのみである。それは17世紀初頭のペルー中央高地のワロチリ地方の文書である (Salomon [ed.] 1991[1608]; Taylor [ed.] 1999[1608])。その他、ケチュア語、アイマラ語、プキナ語などの先住民の言葉で書かれた断片的な情報が、スペイン語で書かれた文書の中に含まれている場合がある。

先住民自身が書いた記録として、フェリペ・グアマン・ポマによる記録がある (Guaman Poma 1987[ca. 1615])。これはケチュア語混じりのスペイン語で書かれている。20世紀初めに発見され、研究の対象となった文書である。絵が豊富に含まれており、他にこのような絵を多く含む文書は見つかっていないため、極めて貴重な資料である。1936年にファクシミリ版が出版され、その後いくつかの筆写版、web公開版が出た<sup>2</sup>。本論集のテーマであるデジタル化がいち早く行われた文書である。筆写版は複数あるが、web上に掲載されているのは1種類のみである。どの版の筆写が最も正確かを検討する必要がある。

他に先住民ファン・サンタ・クルス・パチャクティ・ヤムキという先住民が書いた文書がある。このなかに含まれているいくつかの図版について、議論が重ねられてきた。いくつかの筆写版があるが、1993年に出た版には文書のファクシミリ版があるため、使い勝手が良い (Pachacuti Yamqui 1993[1613])。このファクシミリ版と筆写版のセットでの出版、デジタル化は、他の研究者による検証を可能にするという意味で模範的である。

その他、メスティーソであるインカ・ガルシラソ・デ・ラ・ベガが書いた『インカ皇統記』がある (ガルシラソ 2006[1609])。これはインフォーマントの特殊性から、内容が他の多くのクロニカと異なる点があるのであるが、一番多く流布したため、インカ帝国についての規範的記録として受け入れられた。いろいろな版が様々な文書館、図書館に所蔵されている。

文書のデジタル化を進める際、オリジナルの文書が

1つだけなのか、あるいは複数あるかという点も議論のポイントとなる。

### 3 スペイン人の記録

大部分の記録文書はスペイン人が書いた記録である。大きく国王宛などの文書や巡察記録などの行政文書と、神父が書いた文書に大別できる。

神父が書いた記録として、クリストバル・デ・モリーナの記録がある。2010年にはファクシミリ版と筆写版がセットで出版された (Molina 2010[1575])。その後2021年にも筆写版が出たが、筆写の精度は高いかもしれないが、現物を検討するためには2010年版を参照する必要がある (Molina 2021[1575])。

メルセス会の神父マルティン・デ・ムルーアの記録文書も図が多く含まれており重要である。現物は3つ発見されているが、そのうちの2つのファクシミリ版が出版された (Murúa 2004[1590], 2008[1616])。1590年の記録文書は筆写版が同時に公刊された。1616年の記録文書はファクシミリ版 (Murúa 2008[1616]) の他、筆写版もあるため、比較対照できる (Murúa 1962-64[1616])。

行政文書は数多くある。例えばクスコの役人 (コレヒドール) であったファン・ポロ・オンデガルドのクロニカの重要性が指摘されている。例えば1980年代にアンデス研究の泰斗ジョン・ムラがポロ・オンデガルドの研究を進めていきたいと述べている (Murra 1984: 645)。しかし、関連する記録文書が複数あり、まとまった形での筆写、公刊、翻訳が進んでいない。また近年、1566年の文書が見つかるなどまだ文書の発掘が続いている (Polo 2023[ca. 1566])。

クロニカ以外には、国勢調査の記録 (visita)、裁判の訴訟記録などがある。これらはいずれも長い記録であり、筆写版がいくつか出版されている。ペルー南高地のチュクイート地方の巡察記録 (Diez de San Miguel 1964[1567])、北高地南部のワヌコ地方の巡察記録 (Ortiz de Zúñiga 1967/1972[1562])、北高地カハマルカ地方の巡察記録 (Rostworowski & Remy [eds.] 1992 [1571-72/1578]) などが有名である。しかし、ファクシミリ版が出版されたことはない。

ペルー北部カハマルカ地方については、1571-72/78年の巡察記録のほか、1567年の巡察記録も一部存在

<sup>2</sup> <http://www5.kb.dk/permalink/2006/poma/info/en/frontpage.htm>

が確認されている。それがweb上で公開されていたので、それをダウンロードして筆写をおこなった (Watanabe 2015)。

インディアス総文書館 (Archivo General de Indias) のwebサイトから Archivo General de Indias → Justicia → Autos entre partes de Lima → AUTOS ENTRE PARTES. LIMA

と進んでようやくたどり着ける。以前と文書の番号が変更になっており、現在は Archivo General de Indias, JUSTICIA, 415, N. 2として登録されている。番号が分かれば検索できるが、1つ1つ開いて調査することは難しい。

文書のデジタル化を進めたとしても、それを利用できる方法が周知されなければ意味がない。デジタルデータはアクセス可能になってはじめて意味がある。未刊行の文書を利用する際は、その文書に確実にたどり着ける方法を明記すべきであり、webで公開されている場合は、その検索のルールを統一する必要がある。

パチャクティ・ヤムキの記録、モリーナの記録は比較的少ない枚数であったので、ファクシミリ版と一緒に紙媒体で出版できた。長いクロニカであると、筆写版とファクシミリ版と一緒に出版することは難しい。グアマン・ポマのクロニカ、ムルーアのクロニカは図版が含まれていたこともあり、長いけれどもファクシミリ版が出版された珍しい例である。また、グアマン・ポマのクロニカはweb公開されている。当該文書を所蔵する文書館が文書をデジタル化してweb公開することが理想的である。個人で進めることが可能だとしても、キープのデータベースのように複数立ち上がり混乱する可能性があるため、機関に所属する形で進めるべきである。

### III 筆写版の検証方法

こうした記録は文書館に保管されており、それが研究者に発見されることでその重要性が認識される。書かれてから日の目を見ず、長い間埋もれていた記録文書もある。そして発見されてから、多くの場合はそれが筆写されて、出版されることで、研究者が使用できるようになる。この作業はこれまで紙ベースで行われてきたので様々な不都合がある。

ある筆写版のページ数だけを引用すると、それが他の筆写版のどこを指しているか分からないという問題がある。現在、複数の筆写版がある場合は、引用する際にページ数だけではなく、章番号、オリジナルの文書のフォリオ番号を基にして、他の版でも引用箇所を確認できるルールを徹底すべきである。複数の筆写版の間で引用する部分が異なっている場合、ファクシミリ版と照らし合わせることでどの読み方が正しいかを判断できる。そのため、ファクシミリ版のデジタル化が研究にとって有効である。

#### 1 誤った筆写の例

間違いの例として、パチャクティ・ヤムキの記録文書の筆写版を基に議論を進めたロバート・ランドールの論文などがある (Randall 1993)。

ランドールは、「クスコ・パンパイ (Cuzco pampay)」という部分を引用し、「パンパイ (pampay)」は土地を開墾すること意味する、としている (Randall 1993: 78-79)。しかし1993年のファクシミリ版を確認すると、「クスコ・パンパ・イ・クスコ・リヤクタ (Cuzco pampa y Cuzco llacta)」となっており、パンパイとは読めない (Pachacuti Yamqui 1993[1613]: f. 8)。イ (y) はスペイン語でアンド (and) を意味するため、「クスコの平地とクスコの町」という意味となる。

筆写には古文書学のトレーニングが必要であるが、それが得意な人と分析することができる人が同じであるとは限らない。それは土器の図面を描くことと、土器を分析することとの違いとも類似する。例えば、キープ・テキストの筆写を行った研究者は、アンデス研究の専門家ではなかったため、現地語の解読が困難であった<sup>3</sup> (Brokaw 2008; Pärssinen & Kiviharju [eds.] 2004, 2010)。

グアマン・ポマのクロニカはこれまでデジタル化された唯一の例である。その作業を担った研究者の筆写とともに公開されている。そして検索機能もついている。しかしながら、他の筆写版を参照するためには相変わらず紙媒体のクロニカを参照する必要がある。web版だけを見ても、別の筆写版との間に齟齬があっても気がつかない。

「第二の紋章」という絵の解説を事例として見てみよう (Guaman Poma 1987[ca. 1615]: 83[83])。web版で

<sup>3</sup> 例えば第I巻のp. 152で民族名の Quixos をキープの複数形である quipos と読み間違えている。

公開されている筆写は、ジョン・ムラ、ロレーナ・アドルノ、ホルヘ・ウリオステが編集した版である。第二の紋章は4つに分かれているが、その1つに描かれている鳥の説明の部分を「クリ・キンキティカ (Curi Quinquitica)」と筆写し、「クリ」はケチュア語で「黄金」を意味するため、「黄金のハチドリ (picaflor de oro)」と訳している。しかし、フランクリン・ピースらが編集した版では「クリキング・ティカ・プルマ (Curiquinquitica pluma)」と筆写している (Guaman Poma 1993[ca. 1615]: 83[83])。クリキングは白と褐色の鳥であり、ティカはケチュア語で羽根、プルマはスペイン語で羽根のことを意味する。クリキングの羽根はインカ王の頭飾りにつけられるため (ガルシラソ 2006[1609]: 第六の書第28章、(三)154-157)、「クリキング」と読むのが正しいと思われる。

ちなみにロランド・ハミルトンが翻訳した英語版でも同様に「クリ」を切り離し「黄金」と訳している (Guaman Poma 2009[ca. 1615])。別の読み方が可能であれば、それを web 上で書き込み、情報共有できるような仕組みがあればより良いであろう。

## 2 再検討の例

次に、モリーナのクロニカを取り上げたい。フランシスコ・エルナンデス・アステテは「ウリン・クスコ (hurin cuzcos)」と筆写されている部分は、「ルリン・クスコ (rurin cuzcos)」だという (Hernández Astete 2012: 107, nota 15)。インカ帝国の首都クスコにおいては、ウリン (hurin) は「下」を意味し、「上」を意味するハナン (hanan) と対置され、上下の二分性を示すとされる。しかしながらウリンという単語の意味は、辞書でははっきりせず、別の単語がウリンに置き換わったのではないかという説がある (Cerrón-Palomino 2002)。元の単語の候補の1つがルリン (rurin) であるため、インカの社会構造を理解するために極めて重要な単語である。しかし、ファクシミリ版を確認すると「ウリン (hurin)」という単語は10あるが、その中で rurin に見えるのは2カ所のみである (Molina 2010[1575])。他の8つは、たとえば「ラウラパナカ (raurapanaca)」(f. 12v.) の r と形が違う。

こうした事例を踏まえると、これからクロニカのデジタル版を公開するに当たっては、筆写版だけでなく、ファクシミリ版とともに公開する必要がある。そして、筆写版を対象として、検索機能をつけるべきである。そうすることで他の筆写版との照らしあわせが

容易となり、使い勝手が良くなる。

ファン・ディエス・ベタンソスの記録文書についても述べておきたい。19世紀にその一部が確認されて読まれていたが、バルマ・デ・マヨルカで、その完全版が見つかり1987年に刊行された。しかしその筆写を担った研究者の筆写版 (Betanzos 1999[1557]) は間違いだらけである。現物を見て英訳した1996年のハミルトンの英訳版がより読まれるという皮肉な結果になった (Betanzos 1996[1557])。忠実なスペイン語版はようやく2015年に出版されたが (Betanzos 2015[1557])、それでも現物を見たいという要求は将来起こるであろう。ファクシミリ版が出版されることを期待するが、その文書を発見した研究者のプライオリティーもあるため難しい。

## 3 ファクシミリ版のススメ

現在の段階でベターな方法は、手稿文書のファクシミリ版を作成してそれを研究者が利用できるようにすることである。web サイトの運営維持にお金がかかるのであれば、紙で印刷しても良い。これまで紙でファクシミリ版が刊行されたものは、「グアマン・ポマ (1615年)」、「パチャクティ・ヤムキ (1613年)」、「マルティン・デ・ムルーア (1590年、1616年)」、「クリストバル・デ・モリーナ (1575年)」のクロニカなどである。これはそれぞれ1つしか見つかっていない文書であるので、他に選択肢はない。つまり複数の文書があると、逆にどれを選択すれば良いかを判断する必要がある。例えば、ガルシラソのクロニカは数多く文書館に所蔵されている。ファクシミリ版もあるが (Garcilaso 2009[1609])、他の文書と比較してどのような違いがあるのかどうかは分からない。1621年に出版されたパブロ・ホセ・デ・アリアーガのクロニカも複数残存しているが、そのファクシミリ版が1910年に刊行された。また、大部であると、出版すること、web 上に公開することが面倒になる。

短い文書であれば、考古学の論文における図版のように、論文の中に組み込むことで対応できるであろう。例えばヘルマン・トリムボルンの論文には、「インカの宗教と統治に関する簡潔な報告 (Relacion breve de la religion y el gobierno de los ingas)」という文書の筆写版と文書の画像が両方とも含まれている (Trimborn 1935[ca. 1551])。画像があったためその後ジョン・ロウが引用し、再度筆写している (Rowe 1966[ca. 1551])。

多くの絵を含むポマの記録文書は web 上で確認できる。ムルーアに関してもしあたり、ファクシミリ版と筆写版が web 公開されれば、使い勝手が良い。1616年版を所蔵しているゲティー博物館 (Getty Museum、ロサンゼルス) の英断を期待したい。他のクロニカに関して web 公開が難しいのであれば、ファクシミリ版を出版することが望ましい。万が一、オリジナルの文書が紛失しても再検討が可能となり、被害が少ないからである。それはオリジナルの化石は失われたが、レプリカを基に研究がなされた北京原人の化石の事例と同様である。

ケチュア語やアイマラ語の辞書も同様である。ファクシミリ版が利用できる場合は紙でも良い。しかし、最近、スペイン語の辞書などは web が主体となっているので、ケチュア語、アイマラ語の辞書も web 版で検索できるようにするのが望ましい。

#### IV 記録文書の日本語版

インカ帝国研究は、当然ながら元々の言語であるスペイン語、ケチュア語を基に行われる。しかしながら、研究の裾野を広めるためには、日本語による翻訳も貴重である。インカ研究で重要なクロニカの翻訳状況は次のようになっている。括弧内は翻訳者の名前である。記録文書の年代順に並べてある。

メナ (無名征服者) 1966[1534] 『ペルー征服記』(増田義郎)  
ヘレス 1980/2003[1534] 『ペルーおよびクスコ地方征服に関する真実の報告』(増田義郎)  
サンチョ 2003[1534] 『カハマルカからクスコまで』(増田義郎)  
カルバハル 1980[1542] 『アマゾン川の発見』(大貫良夫)  
キープカマーヨ 1995[1543/1608] 『歴代インカ王の系譜、その統治および征服に関する報告書』(染田秀藤)  
ラス・カサス 1995[1552-1561] 『インディオは人間

か』<sup>4</sup> (染田秀藤)  
シエサ・デ・レオン 2007[1553] 『インカ帝国地誌』<sup>5</sup> (増田義郎)  
シエサ・デ・レオン 1979/2006[1553] 『インカ帝国史』(増田義郎)  
ティトゥ・クシ・ユパンキ 1987[1970] 『インカの反乱——被征服者の声』<sup>6</sup> (染田秀藤)  
ピサロ、ペドロ 1984[1571] 『ピルー王国の発見と征服』(増田義郎)  
トゥルヒーリョ 1992[1571] 『ペルー征服従軍記』(高橋均)  
アコスタ 1992[1588] 『世界布教をめざして』(青木康征)  
アコスタ 1966[1590] 『新大陸自然文化史』<sup>7</sup> (増田義郎)  
ガルシラソ 1985-86[1609] 『インカ皇統記』(牛島信明)  
オカンポ 1984[1611] 『ビルカバンバ地方についての記録』<sup>8</sup> (旦敬介)  
アリアーガ 1984[1621] 『ピルーにおける偶像崇拜の根絶』<sup>9</sup> (増田義郎)

また一部のみが翻訳されたのは次の記録文書である。全訳が待たれる。

コボ 1995[1653] 『新世界の歴史』(高橋均)  
第12巻の全37章中1-17章の翻訳である。インカに関する部分は第11巻から第14巻であり、英語版は1979[1653] (第11巻12巻)、1990[1653] (第13巻14巻)の2冊として刊行された。  
パチャクティ・ヤムキ 1999-2002[1612] 『ペルー王国の昔の出来事に関する報告書』(染田秀藤)  
全43フォリオのうち、f. 31rの途中までの翻訳である。

こうした日本語版もデジタル化することで、検索し

4 『インディアス文明誌』(Apologética historia sumaria) の抄訳である。この中のペルーに関する部分を抽出した版『ペルーの昔の人類について (De las antiguas gentes del Perú)』(Las Casas 1948 [ca. 1559]) があり、全訳が待たれる。

5 抄訳が、1962年 (寺田和夫)、1979年 (増田義郎)、1993年 (染田秀藤) に出された。

6 英語版が2005年から2006年にかけて3つ刊行された (Bauer [ed.] 2005[1570]; Legnani [ed.] 2005[1570]; Julien [ed.] 2006[1570])。しかしファクシミリ版はない。

7 英語の新版が2002年に刊行された (Acosta 2002[1590])。

8 関連する文書の翻訳とともに新たな英語版が2016年に出された (Ocampo 2016[1611])。

9 新たな筆写版が2023年に刊行された (Arriaga 2023[1621]; Calvo Pérez & Urbano [eds.] 2023[1621])。

やすくなり、使い勝手がよくなるであろう。インカ研究で重要でありながら、英語版はあるが日本語版がないのは次のクロニカである。複数翻訳がある場合は新しい版をあげる。

Betanzos 1996[1557] *Narrative of the Incas* (Roland Hamilton)

Sarmiento de Gamboa 2007[1572] *The History of the Incas*<sup>10</sup> (Brian S. Bauer & Vania Smith)

Molina 2011[1575] *Account of the Fables and Rites of the Incas*<sup>11</sup> (Brian S. Bauer, Vania Smith-Oka, & Gabriel E. Cantarutti)

Anónimo / Valera 2011[1593-97] *An Account of the Ancient Customs of the Natives of Peru* (Sabine Hyland)

Salomon, Frank & Urioste, George L. [eds.] 1991[1608] *The Huarochirí Manuscript: A Testament of Ancient and Colonial Andean Religion* (Salomon, Frank & Urioste, George L.)

Guaman Poma 2009[ca. 1613] *The First New Chronicle and Good Government: On the History of the World and the Incas up to 1615*<sup>12</sup> (Roland Hamilton)

Murúa 2024[1616] *The General History of Peru*<sup>13</sup> (Brian S. Bauer, Eliana Gamarra C., & Andrea Gonzales Lombardi)

日本語、英語でも、一部の人が複数回のクロニカの翻訳を手がけていることが分かる。またティトゥ・クシ・ユパンキのクロニカ、モリーナのクロニカなど、同じクロニカを複数の研究者が筆写する、翻訳するということが起こっており、マンパワーを有効に使うためには研究者間の情報共有が必要であろう。

さらにインカ研究で極めて重要でありながら、英語版もないクロニカもある。ポロ・オンデガルド (Polo Ondegardo) の文書を編集したスペイン語版が1999年、2012年、2013年にそれぞれ別の研究者によって刊行された (Chirinos & Zegarra [eds.] 2013; González Pujana [ed.] 1999; Lamana Ferrario [ed.] 2012)。また2023年に

は新たな文書が公刊された。このうち英語訳があるのは文書番号 ms. 3169の文書のみである (Polo 1873[1572])。ムルーアの1590年のクロニカについても英語版はまだない (Murúa 2004[ca. 1590])。

日本語版の多くは手稿ではなく、筆写された版を元にしていて、そこに間違いがあると、日本語版も間違いを引きつづことになる。そのためクロニカ研究では、どの版を基にしているのか、あるいは文書から直接筆写し直したのかを確認することが基本である。

クロニカの研究では、Means 1928<sup>14</sup>、Porras Barrenechea 1986、Pease 1995などが基本文献である。基本的な情報を得るためには2008年に編集された3巻本の『Guide to Documentary Sources for Andean Studies, 1530-1900』(Pillsbury [ed.] 2008) が使い勝手が良い。

ところで日本では、国立民族学博物館を中心にクロニカの検索機能を進めるため、1970年代から1980年代にかけてデータベース化が進められた (熊井2008)。45ものクロニカが手作業でテキスト化された。作業を引き継ぎ、クロニカを検索できるように整備することが望まれる。

## V 紙資料のデジタル化

記録文書ではなく学術雑誌などに掲載された古い論文に関しては、世界中でデジタル化、オープンアクセス化が進んでいる。論文に短い史料のファクシミリ版、あるいは筆写版がついている場合もあり、web上で検索してダウンロードできることは望ましいことである。大きな機関でリポジトリ登録が進めば、今後は安泰であろう。Googleでも古い雑誌のデジタル化が進められているが、安定して維持される方法が確立されることが望まれる。

論文を検索するにはいろいろなサイトがあって、目的の論文にたどり着くための交通整理が必要な段階である。検索するためのルール作りが必要である。これはクロニカのデジタル化のためのモデルとなるであろう。論文を紙媒体として残す必要があるかどうかとい

10 それ以前の訳としては Sarmiento de Gamboa 1907[1572] *History of the Incas* (Clements R. Markham) があり、Ocampo 1611の翻訳も含まれている。

11 それ以前の訳に Molina 1873[1575] *An Account of the Fables and Rites of the Yncas* (Clements R. Markham) がある。スペイン語の新たな筆写版が2008年と2021年に刊行された (Molina 2008[1575], 2021[1575])。

12 全1188フォリオのうち367[369]までの翻訳。

13 全3書のうち第1書の翻訳。

14 <https://archive.org/details/b29827322> でダウンロード可能。

う議論も出てくるであろう。

記録文書は、写しが1つでもあれば、それが後世の研究の役に立つのであるから、紛失するリスクの小さいやり方で、残していくべきなのである。論文のデジタル化も、紙媒体で残っていれば可能である。それは土器や石器という遺物が残っていれば、その後デジタル化作業をすることができるというロジックと同じである。しかし、紙は土器や石器よりも早く劣化が進むため、作業時期も考える必要がある。デジタル化については、一人の研究者ではなく、複数の研究者が共同で進め、単独の人に所有権が帰属しないようにすること、組織が管理することを徹底すべきであろう。

本論文では紙という物体で存在する記録文書を事例として、デジタル化について考えた。考古学データについても基本的には同じであり、できるだけ多くの研究者が利用できるようにしなければならない。デジタル化して、かつそれをDVDなどに記録して販売するという方法もあるが、やはり使いにくい。検索してヒットしたらすぐアクセスできる形式が望ましい。

記録文書も一種の物質として管理されてきたのであるから、まずは論文のデジタル化の方法を踏襲した形で保管するのが現実的であろう。デジタルデータも、サーバに残しておくだけでなく、DVDあるいはハードディスクに保存するなど、リスクを軽減する方法を考えるべきなのである。

物質として残っていない、web上のみのデータ、例えば、ブログや役所のホームページのデータなど、過去のものをどのように残していくかは次の課題であろう。webページを保存したとして、それをどのように利用できるようにするのが問題なのである。それは発掘されたままにしてある遺物と同じ状態である。整理をして研究者が使用できる形に整えなければならない。

## VI おわりに

デジタル化技術が進歩しているが、それに伴う制度の整理が追いついていない。次善の策として、クロニカに関してはファクシミリ版を出版することが良い。たとえ500部であったとしても、将来紛失するリスクは軽減される。

考古学データも同様である。将来の再分析のために、土器や石器を保管することが重要であるが、直接観察することができる研究者は少ない。だから写真と図面

の公開を先にすべきである。図面については、作業に時間がかかる、トレーニングを受けた人が少ない、ということであれば、写真化の作業を先に進めるのでも良い。少なくともアンデス考古学では、発掘後、未公開のままお蔵入りしているデータが多すぎる。

しかし、これはペルーだけの問題ではない。奈良文化財研究所で、年輪年代に関する基本データの請求がされたが、不開示となったという問題が2022年に起こった。その後、基礎データを随時公開するということになった。他の資料でも同様にデジタル化は検証可能な形で進めることで、より科学的な性格となる。研究者が少ない分野については、デジタル化、およびその維持のコストが常に問題としてつきまとう。費用をかける意味がなければ、研究費を他に回した方が良い。

技術が先に進みすぎて、制度が追いついていないという事例は他にもある。デジタル情報は検索すればアクセスできるが、それ以上ではない。web上にあった情報がいつの間にかアクセス不能になっていると言うことは多々ある。デジタル化情報は文字の文化の延長として発達したが、逆説的であるが、むしろ声の文化と類似している部分もある(オング 1991[1982])。文字の文化でありながら、可塑性に富んでおり、ある時点でフィックスすることができない。ある時点で存在した情報をどのように切り取り、どのような形で保存するのか、ルール作りが必要であろう。文化人類学において民族誌的現在という記述スタイルがあるが、そのような記述の仕組みが必要かもしれない。

喩えていうならば、デジタル化技術は車であり、道のあるところしか進めない。道路を敷設する作業、そして道案内をする地図の開発、そしてそれらを扱う人びとの運転免許の取得が必要とされているのである。

## 謝辞

本稿は科学研究費補助金(23H00032、19H01396、19H05734、23682011、19682004)、および南山大学2025年度I-A-2パツへ研究奨励金の研究成果である。

## 参考文献

(日本語文献)

アコスタ、ホセ・デ Acosta, José de (Acosta, José de)

1966[1590]『新大陸自然文化史』大航海時代叢書Ⅲ, IV、増田義郎(訳)、岩波書店。

1992[1588]『世界布教をめざして』アンソロジー-新世界の挑戦11、青木康征(訳)、岩波書店。

- アリアーガ (Arriaga, Pablo José de)  
1984[1621] 「ペルーにおける偶像崇拜の根絶」『ペルー王国史』大航海時代叢書第Ⅱ期16、増田義郎 (訳)、pp. 363-606、岩波書店。
- オカンボ、バルタサル・デ (Ocampo, Baltazar de)  
1984[1611] 「ビルカバンバ地方についての記録」『ペルー王国史』大航海時代叢書第Ⅱ期16、且敬介 (訳)、pp. 299-362、岩波書店。
- オング、ウォルター・J (Ong, Walter J.)  
1991[1982] 『声の文化と文字の文化』桜井直文・林正寛・糟谷啓介 (訳)、藤原書店。
- ガルシラーソ・デ・ラ・ベガ、インカ (Garcilaso de la Vega, Inca)  
2006[1609] 『インカ皇統記』、牛島信明 (訳)、岩波書店。  
カルバハル、ガスパール・デ (Carvajal, Gaspar de)  
1980[ca. 1542] 「アマゾン川の発見」『征服者と新世界』大航海時代叢書第Ⅱ期12、大貫良夫 (訳)、pp. 565-637、岩波書店。
- キープカマーヨ (Quipucamayos)  
1995[1543/1608] 「歴代インカ王の系譜、その統治および征服に関する報告書」『大航海時代における異文化理解と他者認識——スペイン語文書を読む』、染田秀藤 (訳)、pp. 200-240、溪水社。
- 熊井 茂行  
2008 「「帝国」と名づけた人びと——「インカ帝国」概念の形成と展開」『他者の帝国——インカはいかにして「帝国」となったか』、関雄二・染田秀藤 (編)、pp. 21-39、世界思想社。
- コボ、ベルナベ (Cobo, Bernabé)  
1995[1653] 「『新世界の歴史』第12巻第1-17章」、高橋均 (訳)、『外国語科研究紀要』42(4): 1-98。
- サンチョ、ペドロ (Sancho, Pedro)  
2003[1534] 「カハマルカからクスコまで」『インカ帝国遠征記』、増田義郎 (訳)、pp. 139-233、中公文庫。
- シエサ・デ・レオン、ペドロ (Cieza de León, Pedro de)  
2006[1553] 『インカ帝国史』、増田義郎 (訳)、岩波書店。  
2007[1553] 『インカ帝国地誌』、増田義郎 (訳)、岩波書店。
- ティトゥ・クシ・ユパンギ (Titu Cussi Yupangui)  
1987[1570] 『インカの反乱——被征服者の声』、染田秀藤 (訳)、岩波書店。
- トルヒリョ、ディエゴ・デ (Trujillo, Diego de)  
1992[1571] 「ペルー征服従軍記」、高橋均 (訳)、『立正大学経済学会編経済学季報』41(3-4): 1-33。
- パチャクティ・ヤムキ (Pachacuti Yamqui, Juan de Santa Cruz)  
1999[1613] 『ペルー王国の昔の出来事に関する報告書』、染田秀藤 (訳)、『Estudios Hispánicos』23[1998]: 179-193。  
2000[1613] 『ペルー王国の昔の出来事に関する報告書』、染田秀藤 (訳)、『Estudios Hispánicos』24[1999]: 85-99。
- 2002[1613] 『ペルー王国の昔の出来事に関する報告書』、染田秀藤 (訳)、『Estudios Hispánicos』26[2001]: 181-203。
- ピサロ、ペドロ (Pizarro, Pedro)  
1984[1571] 「ペルー王国の発見と征服」『ペルー王国史』大航海時代叢書第Ⅱ期16、増田義郎 (訳)、pp. 1-297、岩波書店。
- ヘレス、フランシスコ・デ (Xerez, Francisco de)  
2003[1534] 「パナマよりカハマルカまで」『インカ帝国遠征記』、増田義郎 (訳)、pp. 7-137、中公文庫。
- 増田 義郎  
1962 「アンデス地方のクロニスタ」『ラテン・アメリカ研究』1: 95-112。  
1967 「後古典期から植民地時代へ——エスノヒストリーの可能性」『ラテン・アメリカ研究』8: 119-154。
- メナ (Mena)  
1966[1534] 「ペルー征服記」『新大陸自然文化史』(下)、大航海時代叢書IV、増田義郎 (訳)、pp. 473-513、岩波書店。
- ラス・カサス (Las Casas, Bartolomé de)  
1995[1550] 『インディオは人間か』アンソロジー世界史の挑戦8、染田秀藤 (訳)、岩波書店。
- (外国語文献)
- Acosta, José de  
2002[1590] *Natural and Moral History of the Indies*. Edited by Jane E. Mangan, with an Introduction and Commentary by Walter D. Mignolo. Translated by Frances M. López-Morillas. Durham and London: Duke University Press.
- Arriaga, Pablo José de  
2023[1621] *Extirpación de la Idolatría en el Perú de Pablo Joseph de Arriaga*. Edición, transcripción y notas al cuidado de Jorge Huamán Machaca. Lima: Editorial Guamán Poma de Ayala S.A.C.
- Betanzos, Juan de  
1996[1557] *Narrative of the Incas*. Translated and edited by Roland Hamilton and Dana Buchanan from the Palma de Mallorca manuscript. Austin: University of Texas Press.  
1999[1557] *Suma y Narración de los Incas*. Transcripción por María del Carmen Martín Rubio. Cuzco: Universidad Nacional de San Antonio Abad del Cuzco.  
2015[1551] *Suma y narración de los incas*. In *Juan de Betanzos y el Tahuantinsuyo: nueva edición de la suma y narración de los incas*. F. Hernández Astete & R. Cerón-Palomino (eds.), pp. 107-440. Lima: Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Brokaw, Galen  
2008 Book Reviews: “The First New Chronicle and Good

- Government” and “Textos Andinos: Corpus de Textos Khipu Incaicos y Coloniales. Vol. 1”, *Ethnohistory* 55(1): 163–165.
- Calvo Pérez, Julio & Enrique Urbano (eds.)  
2023[1621] *Extirpación de la Idolatría en el Perú de Pablo Joseph de Arriaga*. Edición actualizada. Lima: Universidad Ricardo Palma / Editorial Universitaria.
- Caruarayco, Luis  
1955[ca. 1606] Filiación, ascendencia y descendencia del linaje de don Luis caruarayco cacique y S.or principal de toda la provincia de caxamarca por linea reta de varon para relacion mas clara del ynterrogatorio de la ymformacion que pretende hazer en rrazon del dicho cacicazgo que va escripta en capitulos. In *Los Caciques de Cajamarca: Estudio Histórico y Documentos*. H. Villanueva Urteaga (ed.), pp. 7–15. Trujillo: Universidad Nacional de Trujillo.
- Cerrón-Palomino, Rodolfo  
2002 Hurin: un espejismo léxico opuesto a hanan. In *El hombre y los Andes: homenaje a Franklin Pease G. Y. J. Flores Espinoza & R. Varón Gabai* (eds.), pp. 219–235. Lima: Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Chirinos, Andrés & Martha Zegarra (eds.)  
2013 *El orden del inca por licenciado Polo Ondegardo*. Lima: Editorial Commentarios.
- Diez de San Miguel, Garci  
1964[1567] *Visita Hecha a la Provincia de Chucuito*. Documentos Regionales para la Etnohistoria Andina, No. 1. Lima: Casa de la Cultura del Perú.
- Garcilaso de la Vega, Inca  
2009[1609] *Comentarios reales de los incas*. Edición facsimilar preparada por Miguel Ángel Rodríguez Rea y Ricardo Silva-Santisteban. Lima: Universidad Ricardo Palma, Biblioteca Nacional del Perú, Academia Peruana de la Lengua.
- González Pujana, Laura (ed.)  
1999 *Polo de Ondegardo: un cronista vallisoletano en el Perú*. Valladolid: Universidad Valladolid, Instituto de Estudios de Iberoamérica y Portugal.
- Guaman Poma de Ayala, Felipe  
1987[ca. 1615] *Nueva crónica y buen gobierno*. Edición, introducción y notas de John V. Murra, Rolena Adorno y Jorge L. Urioste. Crónicas de América. Núm. 29a-b-c. Madrid: Historia 16.  
1993[ca. 1615] *Nueva crónica y buen gobierno*. Edición y prólogo de Franklin Pease G. Y. vocabulario y traducciones de Jan Szemiński. Lima: Fondo de Cultura Económica.  
2009[ca. 1615] *The First New Chronicle and Good Government: On the History of the World and the Incas up to 1615*. Translated and edited by Roland Hamilton. Austin: University of Texas Press.
- Hernández Astete, Francisco  
2012 *Los incas y el poder de sus ancestros*. Lima: Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Lamana Ferrario, Gonzalo (ed.)  
2012 *Pensamiento colonial crítico: textos y actos de Polo Ondegardo*. Lima/Cuzco: Instituto Francés de Estudios Andinos / Centro de Estudios Regionales Andinos Bartolomé de Las Casas.
- Las Casas, Bartolomé de  
1948[ca. 1559] *De las antiguas gentes del Perú*. Los Pequeños Grandes Libros de Historia Americana, Serie I, Tomo XVI. Lima: Librería e Imprenta Domingo Miranda.
- Means, Philip Ainsworth  
1928 *Biblioteca andina, Transactions of the Connecticut Academy of Arts and Sciences* 29: 271–525.
- Molina, Cristóbal de  
2008[1575] *Relación de las Fábulas y Ritos de los Incas*. Edición, estudios y notas por Julio Calvo Pérez y Enrique Urbano. Lima: Fondo Editorial de la Universidad de San Martín de Porres.  
2010[1575] *Relación de las fábulas y ritos de los incas*. Edición crítica de Paloma Jiménez del Campo, transcripción paleográfica de Paloma Cuenca Muñoz, coordinación de Esperanza López Parada. Frankfurt am Main / Madrid: Vervuert / Iberoamericana.  
2011[1575] *Account of the Fables and Rites of the Incas*. Translated and edited by Brian S. Bauer, Vania Smith-Oka, and Gabriel E. Cantarutti. Austin: University of Texas Press.  
2021[1575] *Relación de las fábulas y ritos de los incas*. In *Materialidad, Memoria y Lenguaje en la Relación de las Fábulas y Ritos de los Incas (1575) de Cristóbal de Molina*. R. Cerrón-Palomino & F. Hernández Astete (eds.), pp. 189–265. Berlin: Peter Lang.
- Murra, John V. & John H. Rowe  
1984 *An Interview with John V. Murra, Hispanic American Historical Review* 64(4): 633–653.
- Murúa, Martín de  
1962–64[1616] *Historia General del Perú, Origen y Descendencia de los Incas*. Introducción y notas de Manuel Ballesteros-Gaibrois. Colección Joyas Bibliográficas, Biblioteca Americana Vetus. Madrid: Instituto Gonzalo Fernández de Oviedo.  
2004[ca. 1590] *Códice Murúa: historia y genealogía, de los reyes incas del Perú del padre mercenario fray Martín de Murúa*. Madrid: Testimonio Compañía Editorial.  
2008[1616] *Historia general del Perú. Facsimile of J. Paul*

- Getty Museum Ms. Ludwig XIII 16. Los Angeles: Getty Research Institute.
- 2024[1616] *The General History of Peru*. Translated and edited by Brian S. Bauer, Eliana Gamarra C., and Andrea Gonzales Lombardi. Denver: University Press of Colorado.
- Ocampo, Baltazar de  
2016[1611] Description of the Province of San Francisco de la Victoria de Vilcabamba. In *Voices from Vilcabamba: Accounts Chronicling the Fall of the Inca Empire*. B. S. Bauer, M. Halac-Higashimori & G. E. Cantarutti (eds.), pp. 116–150. Boulder: University Press of Colorado.
- Ortiz de Zúñiga, Iñigo  
1967/1972[1562] *Visita de la provincia de León de Huánuco*. Huánuco: Universidad Hermilio Valdizán.
- Pachacuti Yamqui Salcamaygua, Joan de Santa Cruz  
1993[1613] *Relación de antigüedades deste reyno del Pirú*. Estudio etnohistórico y lingüístico de Pierre Duviols y César Itier. Travaux de L'Institut Français d'Études Andines 74. Archivos de Historia Andina 17. Lima / Cuzco: Institut Français d'Études Andines / Centro de Estudios Regionales Andinos "Bartolomé de Las Casas".
- Pärssinen, Martti & Jukka Kiviharju (eds.)  
2004 *Textos andinos: corpus de textos khipu incaicos y coloniales. Tomo I*. Acta Ibero-Americana Fennica. Series Hispano-Americano 6. Madrid: Instituto Iberoamericano de Finlandia & Universidad Complutense de Madrid.  
2010 *Textos andinos: corpus de textos khipu incaicos y coloniales. Tomo II*. Acta Ibero-Americana Fennica. Series Hispano-Americano 9. Madrid: Instituto Iberoamericano de Finlandia & Universidad Complutense de Madrid.
- Pease G. Y., Franklin  
1995 *Las Crónicas y los Andes*. Lima: Pontificia Universidad Católica del Perú / Fondo de Cultura Económica.
- Pillsbury, Joanne (ed.)  
2008 *Guide to Documentary Sources for Andean Studies, 1530–1900*. 3 vols. Norman: University of Oklahoma Press.
- Polo Ondegardo, Juan  
1873[1572] Report by Polo de Ondegardo. In *Narratives of the Rites and Laws of the Yncas*. C. R. Markham (ed.), pp. 149–147. London: Hakluyt Society.  
2023[ca. 1566] Carta-relación del licenciado Polo Ondegardo al arzobispo Jerónimo de Loayza sobre creencias y prácticas mortuorias de los pueblos indígenas del Perú, *Histórica* 47(1): 137–172.
- Porras Barrenechea, Raúl  
1986 *Los Cronistas del Perú*. Biblioteca Clásico del Perú 2. Lima: Banco de Crédito del Perú.
- Randall, Robert  
1993 Los dos vasos: cosmovisión y política de la embriaguez desde el inkanato hasta la colonia. In *Borrachera y memoria: la experiencia de lo sagrado en los Andes*. T. Saignes (ed.), pp. 73–112. La Paz/Lima: hisbol / Instituto Francés de Estudios Andinos.
- Rostworowski, María & Pilar Remy (eds.)  
1992[1571–72/1578] *Las visitas a Cajamarca 1571–72/1578*. Lima: Instituto de Estudios Peruanos.
- Rowe, John H.  
1966 Un memorial del gobierno de los incas, *Revista peruana de cultura* 9–10: 27–39.
- Salomon, Frank & George L. Urioste (eds.)  
1991[1608] *The Huarochiri Manuscript: A Testament of Ancient and Colonial Andean Religion*. Austin: University of Texas Press.
- Sarmiento de Gamboa, Pedro  
2007[1572] *The History of the Incas*. Translated and edited by Brian S. Bauer and Vania Smith. Austin: University of Texas Press.
- Taylor, Gerald  
1999[ca. 1608] *Ritos y tradiciones de Huarochiri*. Segunda edición revisada. Lima: Instituto Francés de Estudios Andinos / Banco Central de Reserva del Perú / Universidad Particular Ricardo Palma.
- Titu Cusi Yupanqui  
2005[1570] *An Inca Account of the Conquest of Peru by Titu Cusi Yupanqui*. Translated, Introduced, and annotated by Ralph Bauer. Boulder: University Press of Colorado.  
2005[1570] *A 16th Century Account of the Conquest*. Introduction, Spanish Modernization, English Translation and Notes by Nicole Delia Legani, with prologue by Frank Salomon. Cambridge: Harvard University Press, David Rockefeller Center for Latin American Studies.  
2006[1570] *History of How the Spaniards Arrived in Peru*. Translated, with an Introduction, by Catherine Julien. Indianapolis/Cambridge: Hackett Publishing Company, Inc.
- Trimborn, Hermann  
1935 Unsere älteste ethnographische Quelle über das Inka-reich, *Zeitschrift für Ethnologie* 66: 402–416.
- Urton, Gary  
2003 *Signs of the Inka Khipu: Binary Coding in the Andean Knotted-String Records*. Austin: University of Texas Press.  
2017 *Inka History in Knots: Reading Khipus as Primary Sources*. Austin: University of Texas Press.

2025 *Khipus: A Historical Guide to Making, Encoding and Reading the Inka Knotted-String Records*. Arequipa: Ediciones El Lector.

Valera, Blas

2011[1594] An Account of the Ancient Customs of the Natives of Peru. In *Gods of the Andes: An Early Jesuit Account of Inca Religion and Andean Christianity*. S.

Hyland (ed.), pp. 49–103. Latin American Originals 6. University Park, Pennsylvania: The Pennsylvania State University Press.

Watanabe, Shinya

2015 *Dominio provincial en el Imperio inca*. Yokohama: Editorial Shumpusha.

---

## Digitalization of the Chronicles Related to the Inca Studies

Shinya WATANABE\*

The Inca Empire, which arose in the Andean region of western South America, was conquered by Spanish forces in 1532. Although the Inca were a non-literate society, they employed a cord-based recording device known as the *khipu*. The historical records preserved during the subsequent colonial period are collectively referred to as *crónicas* (chronicles). These include Spanish translations of accounts given by *khipu* specialists, as well as writings by Spanish chroniclers. Such documents are invaluable sources for Inca studies, but in some cases only a single copy survives. Transcriptions of *crónicas* have been published as books, yet contradictions frequently appear among different editions. To ensure accuracy, transcriptions must be checked against facsimile versions, especially when preparing translations into Japanese. Although some *crónicas* are already available online, it remains necessary to digitize not only the transcriptions but also the facsimile versions, and to develop systems that facilitate broad and reliable access.

### Keywords

Chronicles, transcription, facsimile, web

---

\* Nanzan University